

(参考) 課題・次期計画の方向性へのご意見 (全体)

|     |   |
|-----|---|
| 委員1 | <p>容器包装プラスチックの資源化施設できるまで、何ができるか検討すべきであると思います。不可能かもしれませんが、家計が分別し、行政が収集し、当面、地域外の中間処理事業者に委託する可能性について検討すべきだと思います。レジ袋の有料化、食品ロス削減が国や東京都によって進められるので、それに合わせて、町田市において、マイバッグ・マイボトル等のキャンペーンを積極的にやるべきでしょう。次期計画の方向性としては、3Rを基軸とする廃棄物のリサイクルよりも、Refuse(「もったいない」、「かしこい消費」等)を含む4Rを積極的に打ち出し、市民・事業者によるごみ減量化を目指すべきでしょう。</p>  |
| 委員2 | <p>プラのリサイクルについては、残りの資源化施設が稼働しないうちは新たな施策を打ち出しにくい状況ではあるが、一方でプラを減らさなければ大幅なごみ減量も難しい。そこで施設稼働に先行してプラの分別収集を実施してはどうか。当面は結局可燃ごみと一緒に処理してしまうことになるかもしれないが(横浜線以南向けの施設で受け入れられるとよいが)、プラの分別収集量をごみ減量に準じる指標として設定して進捗管理をしつつ、施設稼働前から市民にプラの分別になれておいてもらうと、施設稼働後にスムーズに移行できるのではないかと。並行して、プラの発生抑制に向けた施策の実施も検討するとよいのではないかと。レジ袋有料化やプラスチック製ストローの使用中止など、社会情勢がプラを回避する方向に動いているので、市としても歩調を合わせて市内の事業者などに協力を求め、すぐにごみになるプラをなるべく使わない方向に、市民を誘導できるような方策を考えてはどうか。</p>  |
| 委員3 | <p>○食品ロス削減に向け、事業者や市民との協働によるしくみを作る。<br/>○生ごみについては、たい肥化等のリサイクルを進めるだけでなく、廃棄する未利用食品ゼロを目指した啓発が必要ではないか。<br/>○災害廃棄物処理計画との連携を明確にした計画の策定が必要ではないか。<br/>○プラスチックの焼却を減らし、温室効果ガス削減を図るためにプラスチック製品のリデュースを推進することが重要ではないか。</p>  |
| 委員4 | <p>(1) 社会情勢や環境変化の対応について災害対応について<br/>プラスチックの問題が大きな社会問題となっているので、焦点を当てて特に取り組みを強化する行動としてターゲットをあて、どのような行動がプラスチック減(リデュース)やリサイクルにつながるのかを体系的に市民に知らせることで、全体の削減を図るなどの工夫をしていく必要があるように思う。</p> <p>(2) 災害対応能力<br/>平常時に近隣地域および他の市町村とのネットワークづくりと情報交換などを行うことに特に力を入れる必要があると感じる。とりわけ、ネットワークの構築はそう簡単にはできないので、その点について力を入れてもいいのではないかと。また、協力体制にある市町村については広報等で知らせるなどして、市民のレベルにおいても相互に助け合いを行うことを受け入れる素地を作る必要があると思われる。</p> <p>(3) 家庭ごみの減量<br/>横浜線以南については、プラスチックの分別の取り組みを徹底させる必要があるが、以北についてもスーパーの利用など、分別に対する協力を呼び掛けるなどをする必要があるのではないかと。</p> |

|     |  |
|-----|--|
| 委員5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰が出したものかわからない」ことが課題の原因の一つと考える。ごみの見える化（誰が、いつ、何を）を考えるとどこまで来ているように感じる。</li> <li>・本件の主題とは逸れることを承知で述べれば、「資源化は燃やして成立するものだ」という意見に賛同している。複数の処理施設の建造計画の遅れ、計画の達成度の現状での不透明感を受けるにつれ、水プラズマ触媒技術、古くはブラウンガスの活用等次世代技術的なものの実用化に先鞭をつける程度の気概を持ってごみ行政そのもののあり方が見直されるべき時期にあると考える。「町田・相模原・八王子地区のごみ処理は町田市が引き受ける。また生成されたエネルギーの地域還元を図る」害を生じないかつ圧倒的な処理能力を持つ技術が眼前に来ている。このくらいの謎い文句で地域をリードできる市政のありかたが望ましいと考える。</li> </ul>  |
| 委員6 | <p>事業系ごみについては、許可業者のドライバー不足が問題となっています。清掃工場のごみの受け入れが週6日から週5日（月曜日～金曜日）に変更されれば、ドライバーの働く環境が改善され募集しやすくなります。市民のごみ回収も含めて清掃工場の稼働日を週5回（月～金）に変更する検討をお願い致します。プラスチックは、産業廃棄物の処分場、古紙については古紙問屋でそれぞれ搬入の拒否や制限が始まっています。分別を行っても受け入れがされなければ運搬することもできず市内にゴミが溢れることとなります。汚れたプラスチック、古紙の市での搬入について検討をお願いいたします。</p>  |
| 委員7 | <p>①最近では”環境先進都市町田”というキャッチフレーズは聞かなくなりましたが、やはり志は残っているはずで。現在の計画の”ごみ40%削減”という目標の由来は定かではありませんが、今後は一般市民にもっと理解しやすい目標の立て方が望ましいのではないのでしょうか。バイオ設備もできることで、もう一度環境先進都市を目指し、ごみ処理量削減目標として、多摩地域の中規模都市のなかで、一人当たり処理量で3位以内のランクに入ることを目標としてはいかがでしょうか？一般の市民もわかり易いと思いますし、都市間競争において町田の魅力を高める一助ともなりえます。施策の中心はやはり発生抑制という地道な息の長いものにならないと思います。</p> <p>②ごみ減量のための、”リサイクル”がますます難しくなりつつあります。プラの再利用も大半は結局燃焼となっています。例えば、ものすごく高いコストをかけてまで再利用することが本当にごみ削減の本来の趣旨であるとは思えません。ある意味では、別の資源の無駄遣いに陥る恐れもあります。例えば、プラは、もとは原油です。一度プラとして利用して、最後はエネルギーとして再利用するのは、間違っていないと思います。やはり、ごみのリサイクルの一環としてサーマルリサイクルを入れるべきではないのでしょうか。現在建設中の新ごみ処理設備では高効率発電を目指しています。サーマルリサイクルを正しく評価する良い機会です。</p> <p>③新しくできるバイオガス化設備もごみの減量に実質つながるのは確か10%台です。そして発生したガスも大量の残渣も、あとはまた燃やすだけで、前から言われている”最初から燃やすほうが効率がいい”という素朴な疑問に答えきれていません。残渣の肥料としての利用の開発にもっと力をいれるべきです。そうしないと、国の政策も変わって、バイオガスもそのうち廃れる可能性もあります。20年か30年たって、”町田はまだバイオガスなんかやっているんだ！”とは言われたくないものです。</p> <p>④現在行われている市民参加のごみ減量活動（ごみ減量委員？）も新計画のスタートに合わせ、刷新すべきか？</p> |
| 委員8 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「まちだ☆おいしい食べきり協力店」制度を創設して認定した。一般の人が参加できるようにポイント制度等を追加検討しては？</li> <li>2. 根本的な研究開発に補助、共同開発等に力を入れては、例えばプラスチック材料を紙に変える研究。</li> <li>3. 一般市民が参加や興味を持つように、ポイント制度の活用。</li> </ol>  |

|      |   |
|------|---|
| 委員9  | <p>これまでの審議会での論議を見ると、特に「生ごみ」につきアクションプランと評価結果の間の乖離が大きいとみる意見が多かった。近隣市町村との比較を踏まえた目標値を掲げる計画の策定は有意義といえるが、他方、行動目標を達成するうえでフィージビリティスタディは絶対必要と考える。この点に関し、厚生労働省の生活環境審議会産業廃棄物専門委員会の審議経緯、宮城県環境保全率先実行計画（第5期）における計画の数値目標（添付資料参照）などを見るかぎり、暗にフィージビリティスタディを行った目標設定を行っているように見える。町田市 of 次期計画の基本方針作成にあたり、町田市なりのフィージビリティスタディの在り方の議論が必須と考える。</p>   |
| 委員10 | <p>■市が対応するべき事項1.ゴミ≒資源の取組み。【現行計画の施策を参照されたい。】し尿とゴミは、絶対出るので、行政はその受け皿(再生・処理施設)を作る義務・責任がある。ゴミが増えようが減ろうが、ゴミを「資源」に置き換えれば、ゴミがゴミでなくなる。したがってゴミ減量には、受皿の早急な建設・整備が必要である。具体的には、下記プラント、特にビニールやプラ燃焼によるエネルギープラントの建設が、早急の課題である。市のバイオガス化施設建設と並行して実施すべきである。・プラゴミ→燃焼してエネルギープラント（コージェネレーションによる蒸気タービンなどで、発電※と蒸気等DHC熱源）、および再生。現行の火力発電で使用している石炭に比し、二酸化炭素排出量は少ない。受皿を作ればCO2削減だけでなく、地球環境改善に貢献）・木・草→バイオエネルギープラント、土壌生成・（し尿や雑排水→中水道施設の整備、および残渣の製品化）2.草木の処理について。草木は、可燃ごみとしているが、木の枝と同様、分別排出すれば、その分生ごみ発生量が削減できる。1.にも記したが具体的には、草類のバイオ化は簡単にできるはず。市の回答は、「発酵時間が違うので同時処理できない」とのことだが、別の発酵槽などの再生プラントを作れば一気に解決できる。</p> <p>■他市との比較について。他市とゴミ排出量の比較は、全くと言っていいほど意味がない。結果市民からは「税金払っているのに町田市は何やってんだ」との誹りを受けかねない。他委員から「GDPの比較は、意味がない」というニュアンスの意見があったが、GDPが減少傾向でゴミ量が増えたときには、誹りを受けて当然だが、GDPが上昇傾向でゴミ量が削減できていれば、市の努力が認められ称賛されるはずである。</p> <p>因みに過去3年の実質GDPは、2019年=539,228、2018年=534,465、2017年=530,150（単位10億円）とされ、増加傾向である。少なくとも、基準年度を100とした指数でもって、表現・比較するべきだ。前回、近隣都市に比し、町田市のポイントの低さに愕然とした。</p> <p>■基本理念のキャッチフレーズについて。1.基本理念に資源化と並行して、「エネルギー化」を入れるべき。 2.「燃やさない」という表現は、現在も実行している燃焼処理（熱の利用）に矛盾する。一言加え「むやみに燃やさない」とすべきだ。</p> |